

令和4年度 上田市立真田中学校 学校関係者評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価 (○) と課題 (◇)
<かりがね精神> ・磨き合う心身 ・鍛え合う命	・自ら意欲的に学ぶ生徒 ・豊かな心を育む生徒 ・進んで身体を鍛える生徒 ・命を大切にす	○食育・サルビア栽培活動・農業体験学習などの核となる活動が定着し、特色ある教育活動が実施されている。この時代を生きる子どもたちにとって本当に大事なことである。今後は、より高まっていけばと思う。 ◇「食と命」をテーマとした探究的な学習に取り組んでいるが、より深い学びを促す工夫が必要である。また、地域の方の協力を得て、繋がりが持たせ、各教科の授業の中にも扱った。つながっていると思うが、意識的にはできなかった。 ○体験活動や調査活動を通して、思考力・判断力・表現力等の伸長を図ることができた。 △活動重視になってしまった。

○評価基準 ア…達成できた イ…おおむね達成できた ウ…やや達成できなかった エ…達成できなかった として調査し、下の式で全体評価を行った。
 (アの人数×4+イ×3+ウ×2+エ×1)×25/人数=S (合計点) S≥85→A S≥75→B+ S≥65→B S≥50→C S<50→D

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	学校自己評価	運営委員評価	改善策・向上策
教育活動	授業改善の推進	①「ねらい(学習問題・課題の提示)・めりはり・みとどけ(自己評価・相互評価)」は実践されているか。	○ 学習問題・学習課題を提示することを意識できた。 △ 見届け(自己評価・相互評価)の時間が取れないことがあった。	B	B	・ 振り返りの時間の確保と、ねらいをふまえたまとめになるように、自己評価カードを分かりやすく、かつ誰でも簡単に記入できるよう工夫する。
		②1人1台端末の利活用と授業のユニバーサルデザイン化は推進されているか。	○ 端末で各自に合った視聴覚教材を見たり、学習カードや実験レポートを作成したりできた。 △ 学習効果を上げるような利活用はまだ十分にできていない。	C	C	・ 学習活動の工夫と、利用する場面の設定を考える。 ・ 活用可能なアプリなどの導入、支援員にTTで入っていただくなど、取りかかりの機会を作っていく。
		③少人数グループでの活動を通して、主体的・対話的な学習ができてきているか。	○ わからないことや作業のやり方等教え合う、実験の予想考察など対話的な活動を取り入れた。 △ 時間を確保したい。クラス全体で共有する時の方法も考える。	B	B+	・ 何を話し合うか、何のために話し合うのかを明確にする。 ・ 意見の発表の仕方、賛成意見、反対意見の話し方等ルールを明確にする。 ・ 端末やホワイトボードなどの活用。
		④自己課題解決や発展的な力の伸長に繋がる家庭学習になるよう配慮しているか。	○ その日の授業内容が復習できるように出題できた。提出された課題に所見をつけるように努めた。 △ 1人1人にあった内容、受け身にならない家庭学習を意識させたい。	C	C	・ 次時へつながる内容を、家庭学習に組み込んでいく。 ・ 授業で家庭学習で扱った問題を取り上げて、考え合う場面を多く設定していく。
関係形成能力の育成	①全ての学習活動で友と協働して学べるよう工夫しているか。	○ 少人数の中では自分の言葉で話せるようになってきた。場面に応じて協働するように進めた。 △ 個々の考えを伝え合う場面を設定していきたい。	B	B+	・ 課題把握、中心発問などの重要性を自覚し、授業構想をしっかり練る。 ・ 協働的な学習の在り方や活動の取り入れ方を研修等で学んでいく。	
		②道徳や人権学習を通して、自他の特性を認め、互いを尊重できる取り組みができてきているか。	○ 授業だけでなく日頃の姿を取り上げて、考える時間を作ることができた。 △ 道徳の授業の充実を図りたい。	C	B	・ 毎日の活動が道徳教育だという意識をもつ。 ・ 互いの良さを認める場面を道徳、その様々な教科の授業の中で作っていききたい。
		③明るく開放的な人間関係を築き、挨拶・歌声が響くような工夫ができてきているか。	○ 生活委員の挨拶活動が行われた。教師自ら挨拶を率先して行った。 △ 心が開放され信頼関係あつての歌声。その価値を伝えてきたが、歌う時間が足りない。挨拶の声がまだ小さい。	B	B+	・ 一生懸命歌ったときの気持ちよさを味わわせていきたい。合唱等に関わる機会を増やしていきたい。 ・ 挨拶、コミュニケーションなど毎日の積み上げを大切にしていきたい。
総合的な学習の時間の充実	①「食と命」をテーマとした探究的な学習に取り組んでいるか。	○ 学習支援ボランティアや地域の方々のご協力を頂き、活動できた。身近な課題をグループ活動で探究でき、かりがね祭で発信できた。 △ 自主的に考えられる探究的な活動にしたい。	B+	A	・ 3年間で、継続した活動となるよう、見直しを持って活動を始めることが必要である。 ・ 自ら調べたり、体験したりできる生徒主体な活動を仕組んでいく。	
		②各教科等とのつながりをもたせ、習得した知識・技能の活用を促すことができたか。	○ 他教科(主に家庭科・社会・数学・国語など)とのつながりが持て、各教科の授業の中にも扱った。 △ つながっていると思うが、意識的にはできなかった。	C	B	・ 教科横断的な取り組みもできるようにする。 ・ 日々の学習を通して生徒にどのような力がついているのか、しっかり実態把握をして、活動を仕組んでいきたい。
		③体験活動や調査活動を通して、思考力・判断力・表現力等の伸長を図ることができたか。	○ 体験活動で様々なことを感じ、それをまとめたり、発表したりする力がついた。スライドやドキュメント作りで、表現力が伸びた。 △ 活動重視になってしまった。	B	A	・ 授業で思考のしかたを身につける活動を多くしていく。 ・ 活動を通して何を感じて何を学んだのか、振り返りの時間をしっかりとる。 ・ 必要に応じてICT支援員さんに入っていたいただく。
		④地域の教育力を活用し、社会と繋がる学習活動を行っているか。	○ 食育(卵料理・農業体験・SDGS講演等)やサルビア等で地域の方にご協力を頂いた。 △ 多くの生徒が関わると良かった。	B	B+	・ 次年度も学習の目的を理解していただき、地域の方の協力を得て、繋がっていききたい。多くの生徒が関わられる工夫をしていく。
学校運営	家庭や地域と連携した学びの場の創造	①地域と連携し、特色ある教育活動の充実に努めているか。(学校運営委員会・学習支援ボランティア・PTA等)	○ コロナの規制が緩和されて、元の活動ができつつある。PTA作業・かりがね祭・資源回収は、地域と連携し、部活動は、真田スポーツクラブとの連携がよくできた。サルビア栽培等で地域の人とつながり、豊かな知恵を教えていただくことを通じて、地元真田を愛する気持ちを高められた。 △ 限られた人のみの関わりになってしまった。	B	B+	・ より多くの生徒が関わっていただけるよう、学習支援ボランティアの活用を進めより連携していく。(不適応生徒の支援、各学級への支援、放課後の学習支援・サルビアの栽培等) ・ 少子化に伴い、実態に合った持続可能な活動を構築していく。
		②地域に開かれた、また、地域に信頼される学校づくりに努めているか。(HPの発信・各種通信の発行・学年学級PTA)	○ HPの更新、学校だよりを始め、各通信で生徒の様子を家庭にお伝えできた。 ○ 少ない機会ではあったが、学年PTA等で必要な説明の機会を設けることができた。	B	B+	・ 学年学級PTA等で、これからも保護者の声を聞く機会を大切にしていきたい。 ・ 学年学級PTAの内容を工夫したい。